
単一な世界

シラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

単一な世界

【Nコード】

N5733F

【作者名】

シラス

【あらすじ】

秋になるとなんか切なくなるのでこういう心情になります。なんで秋ってこんなに寂しくなるんですかね。少しでも共感してもらえたらうれしいです。

く単一な世界く

多様性が溢れる世界
木々は色づき
表情を変えていく

賑やかな教室
個性ある人間
複雑な感情を交わしあう

何一つ同じものがない
道端の石ころも
塀上の野良猫も

昨日の木枯らしは
今日どこにいったのか
ただ葉はゆらゆら揺れるだけ

溢れる色に
感じる喜び
隠せない戸惑い

ただ一瞬
全てが染まるとき
平等な緋に還るとき

均質な風景に
埋もれる感性
一面を吹き抜ける哀愁

冷えきった手のひらに
零れそうな淋しさと
一片の安心が舞い込んだ

失った彩り
ただそこにある緋
広がる甘美

見えるもの

聞こえるもの
感じるもの

何もかも
塗りつぶされる
一色に

一人が百人に
百人が一人に
一人が独りに

何もいらない
そこには何もない
怒りも歓喜も

身をまかせ
漂う
同じ流れに

陰る街

戻る色
光る星

闇に包まれ
街灯がともり
人々がざわめく

その前の一時
そこに確かにある
単一な世界

く J U M P く

無力な自分
消えた気力
抱える失望
見失う未来

眠りについて
朝が来て
夜が来て

眠りについて

過ぎる時間は

無情

共に薄れるは

友情

時に恋い焦がれ

見つめる

見つめる

あきらめる

変わらぬ現状に

汗ばむ精神

なのになぜか

淀みない流れに安心する

いつも通り

テレビの上のカレンダーは

躊躇なく

華麗にステップを踏む

23時59分

心臓は一定のリズムを刻む

明日になるその瞬間

僕は日付をJUMPした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5733f/>

単一な世界

2010年10月14日12時09分発行